学力向上のための重点プラン【中学校】　　新宿区立牛込第一中学校

■　学校の共通目標　　【ＨＰ公開用・様式１】

授業作り	重点	タブレット端末を有効活用し、基礎・基本の定着に取り組む。 思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業展開の工夫改善を行う。
環境作り		教職員によるきめ細かい見取りを行い、生徒の健全育成を推進する。 日常的な協働活動を通して、自分を磨き、仲間とともに伸びる善意の集団を育成する。

■　各教科の取組について

教科	学習状況の分析 （各種調査から）	学校が取り組む目標 （日常の授業の様子などから）	目標達成のための取組
国語	・３学年、２学年ともに、「知識・技能」において、漢字や語句などの既習事項を定着させるとともに、状況に応じて適切に活用する力が必要である。 ・２学年は生徒数 50 名のうち８名が外国籍で、読み書きが困難な生徒の割合が高く、そのことがＤ層の増加にもつながっていると考えられる。 ・１学年の平均点は全体的に区を上回っているが、状況や自分の思考に沿って記述することには課題がある。	・漢字や文法の小テスト、暗唱テストを継続して行うとともに、読書活動や、情報を収集し、整理・比較する活動を設定し、文章から読み取った内容を精査して自分の言葉でまとめる練習を積み重ねていく。都立高校入試を見据え、200 字作文の練習にも定期的に取り組ませていく。 ・２学年は外国籍の生徒のための支援を、外部機関とも連携して充実させることで基礎基本の定着につなげていく。学年全体としては、短い文を読み、要約する練習を積ませる。 ・１学年は文章を読むときに留意すべきポイントを都度確認し、様々な文章にふれて実践を積ませる。	・小テストの定期的な実施 ・小作文 ・フラッシュカード ・デジタルドリルを活用した、漢字・語句・文法の反復練習 ・前の学年での既習事項の復習
数学	・第３学年は「知識・技能」において、1 次関数やデータの分析において正答率が低い傾向がある。 ・第２学年は「思考・判断・表現」において、関数のグラフを考え推察する問題において正答率が低い傾向がある。 　区の学力調査では、平均を６ポイント上回り定着が見られた。 ・第１学年は全体の値は区の平均を上回ったが、関数	・第３学年は、デジタルドリルなど ICT 機器を活用した学習を行うと共に、既習事項の定着を目的とした小テストや用語の確認を反復して取り組ませる。 ・第２学年は、計算問題以外にもグラフの作成やデジタル教材を用いた授業を行い、視覚的にグラフを捉える機会を増やす。 ・第１学年は、Geogebra など視覚的に関数を捉える場面を増やし、そこらか式に表す実践を積ませる。	・継続的な小テストの実施 ・デジタルドリルを活用した復習 ・グループワークでの協働学習 ・追加プリントによる反復練習

	の知識・技能において正答率が低い傾向がある。		
理科	・第３学年 　基礎、応用ともに全国平均を下回る結果となった。特に基礎の得点に課題が見られる。 ・第２学年 　基礎、応用ともに全国平均を上回ったものの応用分野においては全国平均点とさほど乖離がない。 　区の学力調査では、基礎、応用ともに平均を大きく上回った。 ・第１学年 　区の学力調査では、基礎、応用とも区の平均を下回った。特に応用分野での得点の開きが大きかった。	・第３学年 　実験結果を正しく記録し正しく理解するとともに、基本的な用語の習得に取り組ませる。また、応用を苦手としている生徒への指導を工夫して行う。 ・第２学年 　自分の言葉による理解を図り、意見を交換し合い発表することで深い学びに結び付けていく。 　一度問題を受け止め咀嚼してから発言する生徒が多く、対話型の授業展開がうまくあてはまったので継続していく。 第１学年 　粘り強さに欠ける生徒が多く、事象を深く掘り下げることが苦手である。それが「思考・判断・表現」の向上に影響していると思われるため、授業展開や発問を工夫し、問題解決や論理的にデータを分析する場面を増やしていく。	・第３学年 ・日々の授業での対話から既習分野の振り返りを行う。 ・定期考査とは別の理科用語テストを繰り返し行い基礎基本の定着を図る。 ・デジタルドリルなどの短答式の学習を牛一タイム（朝の10分間自習）などを活用し継続していく。 ・第２学年 ・少人数グループによる活動場面を増やし、場面に応じた発表活動を行っていく。 ・デジタルドリルなどの短答式の学習を牛一タイム（朝の10分間自習）などを活用し継続していく。 　深い学びにつながる発展学習や読解力問題にも時間をかけて取り組んでいく。 ・第１学年 科学的事象に対し、それを確かめるのに必要な方法の構築やデータを読み取りそこから推論する問題に取り組んでいく。
社会	・第２学年は、基礎学力の定着が不十分で、社会への苦手意識がある生徒が多い。また、思考力、判断力・表現力を問う問題を不得意とする生徒が多くみられる。活動型の授業は積極的に取り組むことができる。 ・第３学年は、基礎学力は徐々に身に付いてきたが、	・デジタルドリルやワークを活用した授業や家庭学習を通じて、学力の定着を目指す。 ・活動型授業のなかで、調査→思考→発表というプロセスの中で基礎的知識の定着がみられたので、今年度も継続する。 ・講義型授業の中で、基礎事項を身に付けた上で、資料から必要な情報を読み取り、歴史的事象や自らの考えをまとめて記述する時間を設けることで、思考力・	・基本事項の徹底 ・デジタルドリルの活用 ・ワークシートの工夫 ・机間指導の充実 ・活動型授業を行う中での発表活動

	思考力・判断力・表現力を問う問題や記述問題は苦手なようである。 ・第１学年は基礎と応用が共に区の平均を上回り、一定の成果と得ることができた。しかしながらＣ層が多いため、引き続き基礎学力の定着を図り、Ａ層とＢ層が増加するよう努める。 ・第２学年は基礎と応用が共に区の平均を上回り、一定の成果を得ることができ、昨年と比べてＣ層が減り、Ｂ層が増えた。しかしながら、Ａ層が減り、Ｄ層が若干増加した。	判断力・表現力を高めていく。 ・第１学年は引き続き授業で資料の読み取りや基礎事項の確認を繰り返し、基礎学力の定着を図る。また、教材開発を通じて生徒の社会への興味関心を高めていく。 ・第２学年は引き続き授業で資料の読み取りや基礎事項の確認を繰り返して基礎学力の定着を図りながら、応用問題や発展的な問いや学習にも取り組ませることで、Ａ層の増加につなげていく。	
英語	・３学年は、全体的に区や国の平均より回っているが、Ａ層とＤ層との差が大きいことが課題である。 ・２学年は、区や国平均は上回った。課題であった「応用」または「思考力・判断力・表現力」においても、伸びてきている。来年度も、基礎の定着はもちろんのこと、さらに「思考力・判断力・表現力」を意識した授業作りをしていきたい。 ・１学年は、区や国平均は上回っているが、Ｃ層・Ｄ層の合計が５０％を超えている。まず基礎の定着を課題にしていく必要がある。	・３学年は、受験に対応できるように、「読解力」と「スピーキング力」の向上を目標にしていきたい。また、基礎基本の定着のために「単元テスト」なども行っていく。 ・２年生は、受験に向けて、さらに「思考力・判断力・表現力」の向上を目標に、「読解力」と「スピーキング力」の向上を目指していく。また、基礎基本の定着のために「単元テスト」なども継続して行っていく。 ・１学年は、基礎基本の定着のために「単元テスト」などをこまめに行っていく。また、帯活動を工夫し、基礎の定着を繰り返し行っていく。	３年生は、帯活動にﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ教材を取り入れ、「読解力」をつけていくと同時に、「スピーキング力」をつけるために、帯活動のﾍﾟｱﾜｰｸの充実や、学期に１～２回の「ALT とのコミュニケーションテスト」を実施する。 ・２年生は、受験に向けて、帯活動で「基本的な表現」を繰り返し練習しつつ、「読解力」や「英作文」を多く取り入れ、「スピーキング力」をつけるために、来年度も、「ALT とのコミュニケーションテスト」を実施する。 ・１学年は、「単元テスト」や「帯活動」を工夫し、基礎の定着を繰り返し行っていく。

学力向上のための重点プラン【中学校】　　新宿区立牛込第一中学校

■　効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】　　【区教委提出用・様式２】

☒　学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び生徒へ説明をしている。
☒　学校は活用に際して、ＩＤやパスワードについて保護者及び生徒へ説明をしている。
☒　生徒及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
☒　学校は生徒が学校生活においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
☒　学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
☒　学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を生徒に与えている。
☒　担任等がデジタルドリルを活用し、生徒一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■　自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

・結果帳票の返却時に、分析した各学年の傾向を説明し、ポイント抑えて指導している。
・学力定着度調査を詳細に分析し、各教科の授業では、本校生徒の得手は伸ばし、不得手を補うような学習指導の改善を意識している。
・朝時間を活用し、個別に連携したデジタルドリルに取り組ませている。
・本校は英語を得意とする生徒が多いものの、理科・社会については得点が伸び悩む生徒が多い傾向にある。よって、学力調査と連携したデジタルコンテンツを活用し、苦手分野における基礎基本の定着に重きを置いている。

■　自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

・5教科の授業の冒頭において、５分間程度のデジタルドリルタイムを設け、前時の復習を行い、既習事項の定着状況を把握している。
・朝の牛ータイムにおいて、定期的にデジタルドリルタイムを設定している。
・定期考査前の、基礎基本事項の確認として活用している。
・新宿区学力調査の結果と連携したデジタルコンテンツを春季休業の課題とした。
・夏季休業中等に１学期の振り返り活動としてデジタルドリル活用した。

■　ＨＰ掲載／内容更新チェックリスト

区教委への様式提出締切日	更新日	更新確認者職名・氏名
例	5月10日（金）	主幹教諭・新宿太郎
第１回　5月13日（月）締切	5月29日（水）	副校長・西雄一
第２回　11月11日（月）締切	11月26日（火）	副校長・西雄一
第３回　3月10日（月）締切	３月２１日（金）	副校長・西雄一